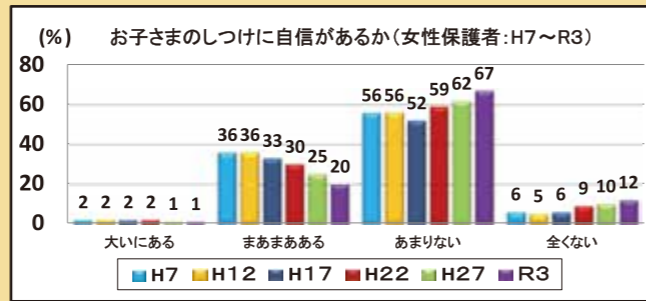
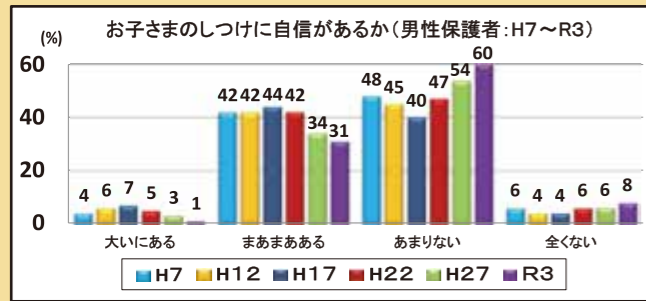
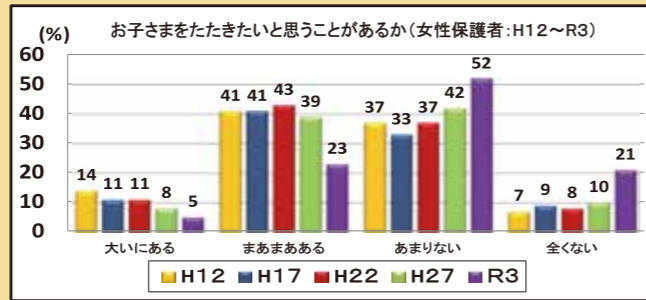
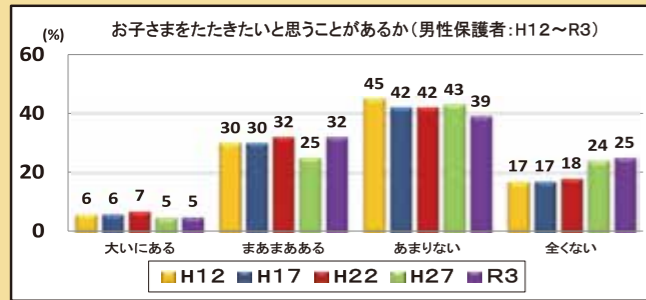


親の子育てについての学びの支援や 子どもに関わる全ての大人の交流を深めましょう！



「しつけへの自信」については、「大いにある」「まあまあある」を合わせた割合が、男性保護者では平成7年度46%だったのに対し、令和3年度は32%と14%減少しています。女性保護者では平成7年度38%だったのに対し、令和3年度は21%であり17%減少しています。



「お子さまをたたきたいと思うか」については、令和3年度「大いにある」「まあまあある」という男性保護者は37%、女性保護者は28%で、平成12年度に比べ、男性保護者は若干増加、女性保護者は27%減少しています。

◇ 子育てに自信が持てない保護者は増加傾向にあります。育児に対して不安や悩みを抱えたまま孤立する保護者の増加が懸念されます。特に、今回の調査でしつけに「全く自信がない」と回答した約10%の保護者への対応は急務です。地域社会において孤立する保護者がいた場合に、いつでも相談でき、専門的な助言がもらえる機関が地域にあることが望まれます。



一人で悩まず 気軽にアクセス

① HP「ふくおか子育てパーク」
～子育てに役立つ情報がいっぱい～
<http://www.kosodate.pref.fukuoka.jp/>

③ 家庭教育相談電話「親・おや電話」
～専門の相談員がお受けします～
電話 092-947-3515
月曜～土曜 (9:00～17:00)
※ただし、センターの休所日、第2月曜日、第4土曜日、祝日・年末年始を除く

② 子育ての悩みは「メール相談」
～先輩ママがお受けします～
ふくおか子育てパークのコンテンツの相談フォームから受け付けています。

編集／発行
福岡県立社会教育総合センター
糟屋郡篠栗町大字金出 3350-2
電話 092-947-3512



※この調査の報告書及びダイジェスト版は、福岡県立社会教育総合センターのホームページ (<http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/center/>) からダウンロードできます。

27年間の推移をふまえて

子育てや家庭教育について みんなで考えていきましょう



福岡県教育委員会では、令和3年度に「幼児(3・4・5歳児)を養育する保護者の家庭教育に関する調査」を実施しました。

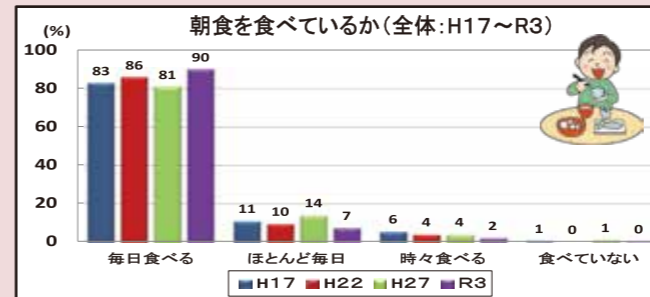
この調査は平成7年度から3・4・5歳児の保護者に御協力いただき、約5年ごとに実施しているものです。今回で6回目になります。

今回の調査や27年間の推移をもとに、現在の保護者の子育ての実態や思いをまとめました。

これからの子育てや家庭教育の在り方を探るきっかけとして活用していただければ幸いです。

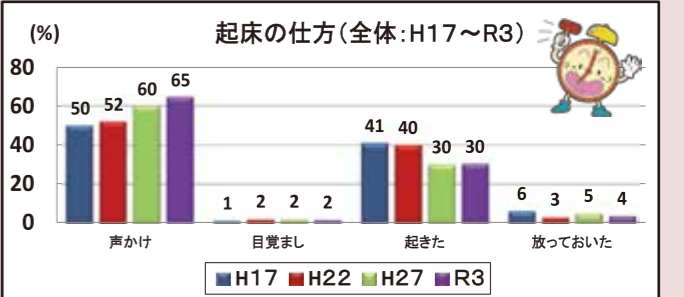
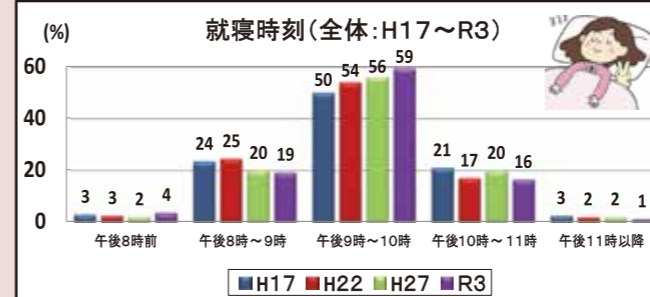
対象者：県下の3・4・5歳児の保護者
有効回答数：男性保護者130名
女性保護者442名
合計572名
※グラフについては、無回答分は省略しています。

幼児期から規則正しい生活習慣を身に付けましょう！



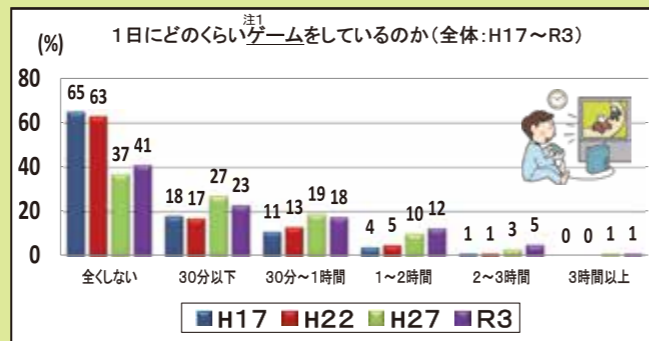
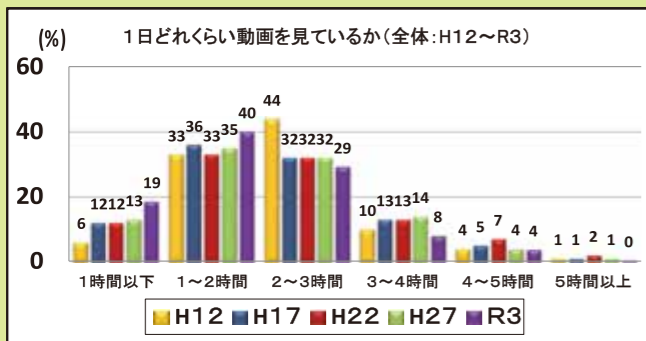
朝ごはんを「毎日食べる」「ほとんど毎日食べる」を合わせた割合は97%であり、平成17年度から高い割合を維持しています。

しかし、就寝時刻に関しては、平成17年度から午後9時前に寝ている割合が30%に満たない実態が続いています。また、朝「自分で起きた」割合は、平成17年度から減少しています。



◇ 朝食を食べることは、子どもの身体の発達にとって重要です。食欲は、生活リズム(「早起き」「早寝」「朝ご飯」)や遊びに大きく左右されます。生活リズムを整え、朝食を食べて脳と体を活発に活動させるような好循環を心がけましょう。

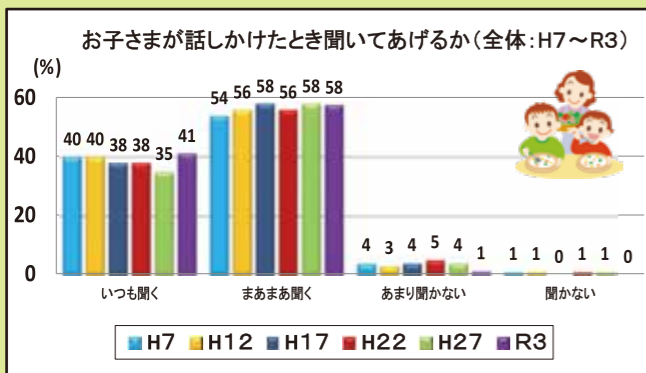
親子のコミュニケーションの在り方を見直してみましょう！



「動画の視聴」については、動画の視聴時間が「1時間以下」「1~2時間」を合わせた割合が平成12年から20%増加しています。また、「3時間以上」動画を視聴する割合は、平成27年度から7%減少しています。「1日のゲーム時間」については、平成17年度に比べ、「全くしない」と答えた割合が24%減少しています。しかし、全体で約60%以上がマルチメディア系ゲームをしているということも明らかになりました。

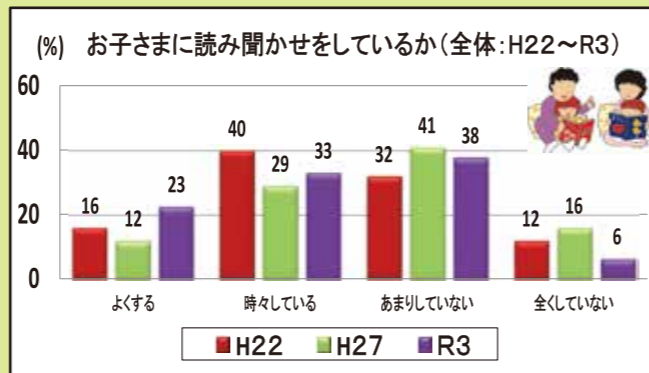
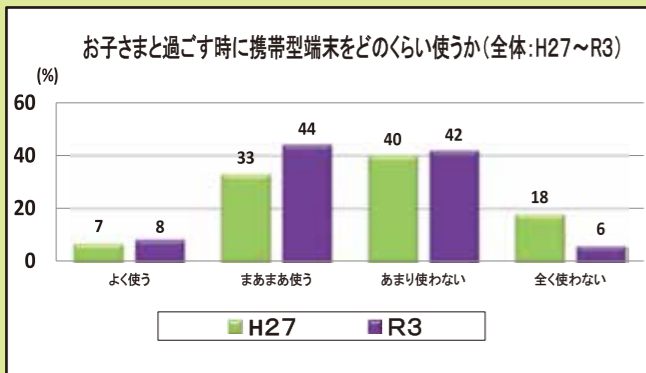
注1…ここでは、テレビ、パソコン、タブレット、スマートフォン等のいずれかのゲームを指す。

◇ 幼児の脳は未発達であることから、メディアとの接触時間などを保護者がコントロールする必要があります。同時に、メディア接触以外の活動である外遊びや親子のコミュニケーション、読み聞かせなどの時間を設けることも大切にしていきましょう。



「おさまとの対話」については、「いつも聞く」「まあまあ聞く」を合わせた割合が平成27年度から6%増加しています。

◇ 親子の対話は、語彙の獲得とともに、「自分は受け入れられている」と感じさせます。「なに?」「どうして?」と尋ねてきたり、話しかけたりしてきたときは、目と目を合わせ、傾聴する姿勢を大切にしましょう。

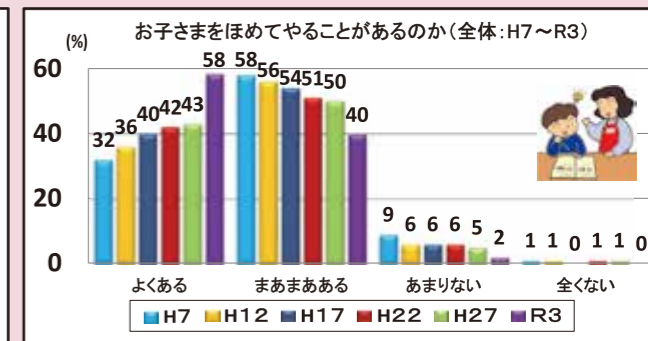
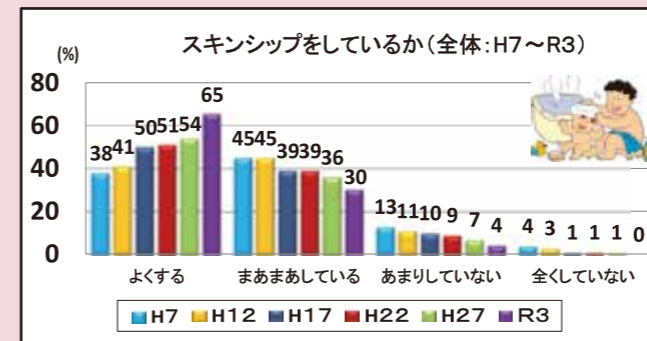


「おさまと過ごす時の携帯型端末の使用頻度」については、「よく使う」「まあまあ使う」を合わせた割合が平成27年度から12%増加しています。「読み聞かせ」については、「よくする」「時々している」を合わせた割合が平成27年度から15%増加しています。

注2…(子供や聴覚障害者などに)文章を読んで聞かせること。【大辞林第三版】三省堂より

◇ 読み聞かせは、登場人物に感情移入し、ストーリーの展開により得られた感動が、思いやりの心や友情など、子どもの心を育みます。保護者と子どものコミュニケーションの時間が携帯型端末に奪われているようでは、子どもの自己肯定感を高めることは難しいです。読み聞かせを共にする時間をきちんと確保することを心がけましょう。

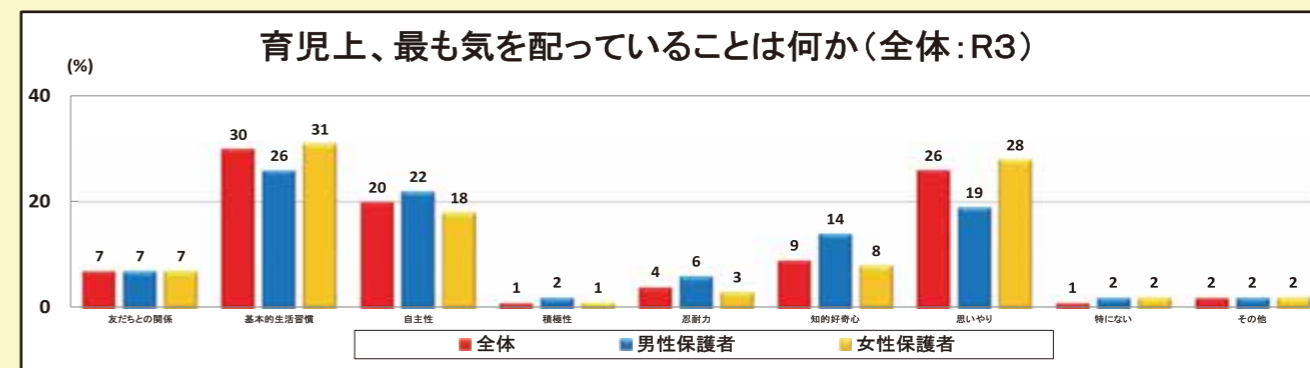
スキンシップやほめることで温かい愛情表現を大切にしましょう！



「スキンシップ」については、「よくする」の割合が、平成7年度から27%増加しています。「おさまをほめてやること」については、「よくある」の割合が、平成7年度から26%増加しています。

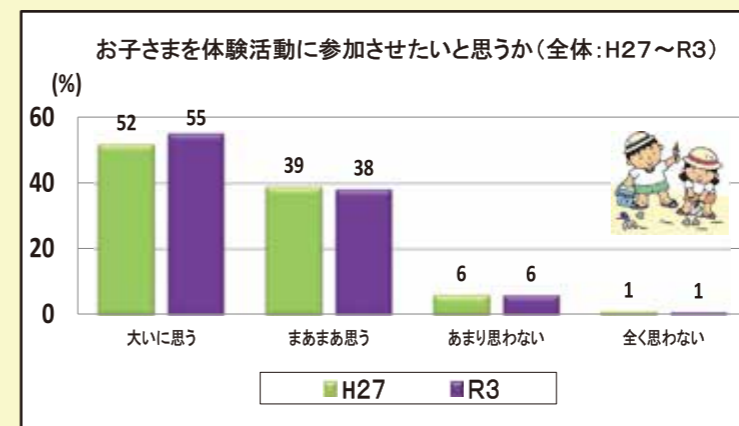
◇ スキンシップは相手のぬくもりを感じ、心を通わせる重要なコミュニケーションの手段です。また、子育てにおいて子どもをほめて伸ばそうとする意識は、自己肯定感を高める上からも好ましいです。「おさまへのスキンシップ」と「ほめて伸ばす」を実践していきましょう。

たくましく豊かな心を育む体験活動をさせましょう！



「育児上、最も気を配っていること」について、平成27年度の調査で最も多かったのは、男性保護者は「思いやり」、女性保護者は「基本的な生活習慣」でした。今回の調査では男性・女性保護者ともに「基本的な生活習慣」になっています。

◇ 「基本的な生活習慣」が多くなった要因として、社会で生きていく上で「基本的な生活習慣の形成は家庭の役割」という認識が広がったことが考えられます。さらに、今回の調査で「知的な好奇心」が増加してきたのは、未来を切り拓くため学び続ける子どもに成長してほしいという願いが表れていることが考えられます。



「おさまを体験活動に参加させたいと思うか」については、前回の調査から若干増加しています。

◇ 自然体験活動を行うことで、五感を通して生命や自然の美しさ、不思議さに触れさせることで、子どもの感性が磨かれ、思いやりの心や知的な好奇心が高まっていきます。子どもと触れ合う体験活動の機会を充実させましょう。